

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【泰平小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	概ね知識・技能の定着が図れているが、学年によっては、基礎的・基本的な知識の定着に課題がみられた。また、定着に個人差があるため、個別に必要な手立てを講じていく必要がある。また、知識・技能をより定着させるために、繰り返し学習による基礎の習得、個別最適な学びの研修やICTの活用をより充実させていく必要がある。
思考・判断・表現	問題をじっくりと読んで、聞かれていることに答えることや資料から情報を読み取ることに大きな課題が見られる。各教科において、「さいたま市『アクティブ・ラーニング型授業』」のさらなる充実を目指していく。また、「なぜ?」「どうして?」など、意図的に思考力を高めるための発問を多く取り入れていく。また、自分の考えを主体的に発表する機会を増やしたり、毎時間の振り返りを充実させたりすることで、思考力・表現力の育成につなげる。
主体的に学習に取り組む態度	授業改善を行っていくとともに、ICTを活用した学習記録の蓄積(スクールダッシュボードの活用)をより一層図っていく。また、児童にとって価値のある課題を意図的に設定するなど、課題解決型学習をより一層充実させることで、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問に対する肯定的な回答をする児童の割合を向上させていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5さいたま市学習状況調査において、「知識・技能」にかかわる領域で、R4年度の結果より各学年2pt向上させる。	⇒ 各教科のドリルや学習ソフト(ドリルパーク等)を活用し、漢字・計算など反復して取り組むことで基礎学力の定着を図り、真の学力を育成する。家庭学習の定着を図るため、懇談会等で家庭学習への啓発を図る。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において「思考・判断・表現」をR4年度の結果より各学年2pt向上させる。また、無回答率を昨年度より低くする。	⇒ 各教科において、「さいたま市『アクティブ・ラーニング型授業』」を推進するとともに、国語科の学校課題研修のより一層の充実を図る。「なぜ?」「どうして?」など、意図的に思考力を高めるための発問を多く取り入れていく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の質問紙調査、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いに対して、肯定的な回答9割を目指す。	⇒ 主体的で対話的な学びの充実に向けた授業改善をしていくとともに、ICTを活用した学習記録の蓄積を図っていく。各教科、毎時間の振り返りを大切にしていく。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5さいたま市学習状況調査同一集団経年比較「知識・技能」において、昨年度より全ての学年全ての教科とも向上がみられた。各学年において、基礎学力定着に向けた繰り返し学習や、ドリルパークの活用等に成果が見られている。	B
思考・判断・表現	R5さいたま市学習状況調査同一集団経年比較「思考・判断・表現」において、昨年度よりほとんどの学年で各教科2pt程度の向上がみられた。学校課題研修の具体的な手立ての成果が見られている。また、「さいたま市『アクティブ・ラーニング型授業』」を意識した授業改善が進んでいる成果である。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の質問紙調査、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いに対して、肯定的な回答9割を目指したが、88%とわずかに届かなかった。児童が自ら課題を解決したいと思えるような授業展開をしていく必要がある。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校結果と比較すると、国語+2pt、算数-3ptであった。国語では、情報の扱いに関する事項において、正しい情報を読み取れていない児童が多くみられた。また、算数の「図形」領域において課題がみられた。図形の意味や性質を理解していないことが考えられる。図形を扱う際には、図形の本質的な意味を考えたり説明したりする活動を重視したい。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、国語-2pt、算数+3ptであった。国語の「書くこと」の領域において、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫することに課題がみられた。算数では、理由を言葉や数を用いて記述することに課題がみられた。情報を適格に読み取り、わかったことから自分なりの考えを構成し、表現する能力を養えるよう意識していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は88%で目標値に達しなかった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査と比べ、「知識・技能」で、算数+2pt、「思考・判断・表現」で、国語+2ptであった。国語の「書くこと」の領域、算数の「数と計算」の領域に課題がみられた。教科への興味関心については、国語・算数とも肯定的な回答の割合が90%以上と高い傾向がみられた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査と比べ、国語+4pt、算数+8ptと向上が見られ、市の平均を上回った。国語では、我が国の言語文化に関する事項で正答率が低かったが、算数では、全体的に良好な結果であった。教科への興味関心については、国語・算数とも肯定的な回答の割合が90%以上と高い傾向がみられた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度調査と比べ、国語は同程度、算数は+2ptであった。「思考・判断・表現」において、国語+1pt・算数+6ptであった。国語の言葉の特徴や使い方に関する事項に課題がみられた。算数では、数と計算の領域に課題がみられた。教科への興味関心については、各教科とも肯定的な回答の割合が高い傾向がみられた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」・「思考・判断・表現」とともに、R4年度調査と比べ、全教科+1pt以上の向上がみられた。算数のデータの活用や理科の「生命」を柱とする領域に課題がみられた。「各教科の内容はわかりますか?」の質問項目について、全教科とも肯定的な回答の割合が95%以上を超え、高い傾向がみられた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 全国学力学習状況調査の結果から、題意を正確に捉え、捉えたことから思考する力に課題がみられた。4月当初の策に加え、じっくりと考える時間をより一層確保していく。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 全国学力学習状況調査の結果から、目標値に届かなかったため、学びのポイント「じ・し・や・く」の視点を取り入れた授業改善に努める。